

# 愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2008年16週(4月3週4/14~4/20)

(作成) 愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

麻しん患者発生状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

### 定点医療機関コメント

水痘、溶連菌感染症、感染性胃腸炎(ロタウイルス等)、インフルエンザ、マイコプラズマ等

### 全数把握感染症発生状況

( )内は件数。結核(18)、ジアルジア症(1)、梅毒(2)、破傷風(1)、麻しん(11)

感染症だより(4月前半)

### WHO疫学週報抄訳

2008年3月28日(83巻13号)

ポリオ根絶進捗: パキスタンとアフガニスタンの状況 2007年1月 - 12月

世界のインフルエンザ近況: 08年10 - 11週

2008年4月4日(83巻14号)

ポリオ: ソマリアにおける再根絶

新生児破傷風; ザンビアにおける根絶

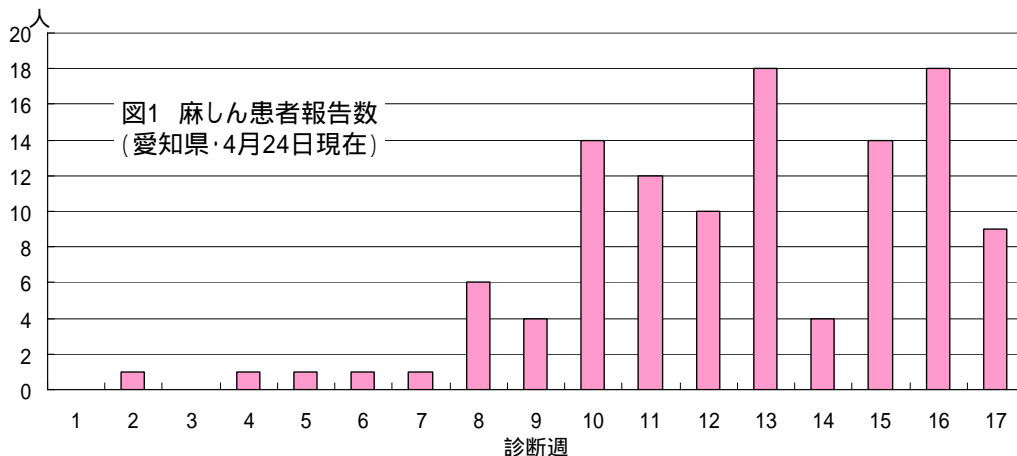
定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

感染性胃腸炎 保健所定点あたり 津島 28.9人

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

## トピックス

麻しん患者発生状況 (図1)



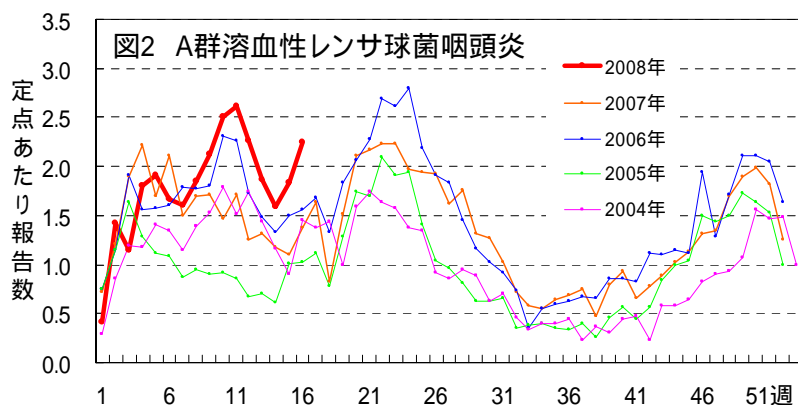
2008年1週~17週診断分(4月24日現在)の全国の麻しん患者累計は6,315人、うち愛知県は114人です。麻しんを診断した場合は**できる限り24時間以内に保健所へ報告**をお願いします。

【参考ページ】麻しん患者調査事業における麻しん患者発生報告状況(2008年)

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl\\_3.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl_3.html)

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点あたり患者報告数は過去5年の同時期で最も多く2.25人、前週比1.2倍(335人410人)です。警報レベル(4.0人以上)の保健所は瀬戸、春日井及び岡崎市です。



## 定点医療機関コメント（名古屋市除く）

### 尾張西部地区

感染性胃腸炎やや流行  
アデノウイルス感染症 2 名 1 名（成人）  
は家族内感染  
【一宮市 後藤小児科医院】  
3 歳 インフルエンザ B 型（母は 2 日前に A 型）  
【一宮市 平谷小児科】  
感染性胃腸炎が増加しています。  
喘鳴を伴う喘息様疾患やや目立ちました（メタニューモウイルス感染症？）  
インフルエンザ 5 名（すべて A 型）  
【江南市 みやぐちこどもクリニック】

感染性胃腸炎、溶連菌感染症が目立ちます。  
水痘も散発。  
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】  
ウイルス性の喉頭炎が目立ちます。  
手足口病もあります。  
硬口蓋、舌炎の炎症が続いています。  
【犬山市 武内医院】  
4 歳男 カンピロバクター及び病原大腸菌（O15）  
59 歳女 マイコプラズマ感染症。  
ロタウイルス性胃腸炎が未だ続いています。  
【春日町 丹羽医院】

### 尾張東部地区

ポツリポツリとあります。  
【東郷町 ホリバ医院】  
溶連菌感染症流行続いております。  
今週は嘔吐下痢症が多くみられました。  
ヘルパンギーナありました。  
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】  
溶連菌感染症が急増しました。  
インフルエンザ A 型 1 名のみ。  
【瀬戸市 津田こどもクリニック】  
12 歳男 病原大腸菌 O1（ベロ毒素（-））  
感染性胃腸炎  
【豊明市 豊明団地診療所】  
インフルエンザも減って感染症が少なくなりました。  
【春日井市 春日井市民病院】  
溶連菌感染症少々。  
感染性胃腸炎少々。  
【春日井市 朝宮こどもクリニック】  
広島在住の父から感染した 2 歳女インフルエンザ A 型発症。  
【春日井市 竹内医院】  
当院周辺の小学校、保育園にてインフルエンザ A が散見されます。  
感染性胃腸炎は相変わらず多いです。  
【春日井市 かがわこどもクリニック】  
3 か月の R S 細気管支炎と 4 か月の百日咳は入院中です。  
【小牧市 小牧市民病院】

市内一保育園でインフルエンザ A 型の小流行がみられます。  
溶連菌感染は相変わらず多いです。  
【小牧市 志水こどもクリニック】  
溶連菌が相変わらず多いようです。  
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】  
インフルエンザ A 2 26 歳男、24 歳女  
【半田市 医療法人林病院】  
インフルエンザ A 型 2 名  
ロタウイルス腸炎 1 名  
【半田市 半田市立半田病院】  
感染性胃腸炎、溶連菌感染症散発  
【南知多町 医療法人大岩医院】  
マイコプラズマ肺炎 2 歳、感染性胃腸炎（ロタウイルス症）流行中  
【美浜町 厚生連知多厚生病院】  
ロタウイルス 2 名  
インフルエンザは A 型です  
【大府市 まえはらこどもクリニック】  
感染性胃腸炎 1 歳女 2 名：ロタウイルス  
感染性胃腸炎 2 歳男：ロタウイルス  
【東海市 東海市民病院】  
ロタウイルス 陽性 2 名  
3 週間ぶりにインフルエンザ（A 型）が出ました（兄妹）  
ヘルペス歯肉口内炎 1 歳女  
水痘がやや多いようです  
【東海市 もしもしこどもクリニック】

---

西三河地区

---

1歳女 ロタウイルス  
10か月男 ロタウイルス  
8か月男 ロタウイルス、アデノウイルス  
2歳男 *E.coli* (O74)  
3歳男 *E.coli* (O125)  
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】  
インフルエンザA型 3名  
【豊田市 田中小児科】  
ロタウイルス(+) 15名  
インフルエンザA型 2名  
【豊田市 すくすくこどもクリニック】  
病原大腸菌O18(+) 9か月男  
インフルエンザはいませんでした。  
【岡崎市 花田こどもクリニック】  
インフルエンザ7例(内1例B型)。  
その他は溶連菌感染症が散見されます。  
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】  
カンピロバクター 7歳女、3歳男  
アデノ(+) 2歳男、1歳男、3歳男  
9か月女 病原性大腸菌O25(+)VT(-)  
1歳女 病原性大腸菌O18(+)VT(-)  
9歳男 病原性大腸菌O1(+)VT(-)  
カンピロバクター  
インフルエンザA型 2名  
【岡崎市 にいのみ小児科】

4歳女 アデノウイルス、滲出性扁桃炎  
9歳女 病原大腸菌O25  
4歳女 マイコプラズマ肺炎  
ロタウイルス腸炎を中心としたウイルス  
性胃腸炎が多い。(保育園で流行)  
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】  
インフルエンザA型 3歳女  
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】  
インフルエンザA型:1名(予防接種未)  
でした。  
【岡崎市 栗屋医院】  
インフルエンザ A・B型でした。  
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】  
マイコ気管支炎 3名  
ロタウイルス腸炎 0歳 1歳  
【刈谷市 田和小児科医院】  
溶連菌感染症、感染性胃腸炎、水痘目立ち  
ます。  
【碧南市 永井小児クリニック】  
水痘が7名と多い。  
【知立市 宮谷クリニック】  
感染性胃腸炎が多いです。  
【三好町 三好町民病院】  
26歳女 カンピロバクター腸炎  
【西尾市 山岸クリニック】  
病原性大腸菌4歳男O6(VT-)  
カンピロバクター7歳女  
【幸田町 とみた小児科】

---

東三河地区

---

ロタウイルス性腸炎 4名  
【豊橋市 マミーローズクリニック】  
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎流行中  
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】  
インフルエンザ A(+)です。  
【豊川市 豊川市民病院】

カンピロバクター7歳男  
カンピロバクター6歳女  
*E.coli* (O18)男5か月  
【豊川市 ささき小児科】  
2回目(今季)のインフルエンザA(5  
歳男) その弟(1歳)に伝染  
【蒲郡市 蒲郡市民病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）4月23日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun071228.pdf>)

結核（二類感染症）

報告保健所	16週報告数			2008年累計(1～16週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	8	5		245	80	17
豊田市	1			25	7	4
豊橋市	1	1		20	10	4
岡崎市				22	13	2
一宮	3	1		28	9	
瀬戸				44	23	1
半田				11	3	2
春日井	2			31	9	1
豊川				8	4	
津島	1			20	6	1
西尾	1			17	11	1
江南	1	1		23	8	1
新城				2	1	
知多				31	6	9
師勝				4		
衣浦東部				29	4	8
合計	18	8	0	560	194	51

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

ジアルジア症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	知多	66	男	タイ

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	豊田市	43	男	無症候	不明	国内
2	岡崎市	17	女	早期顕症	性的接触	国内

破傷風（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染地域
1	瀬戸	75	男	国内

麻しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	19歳	男	無	国内
2	名古屋市	24歳	男	不明	国内
3	豊田市	31歳	女	不明	国内
4	豊田市	1歳	男	有	国内
5	豊田市	0歳11か月	女	無	国内
6	一宮	15歳	男	無	不明
7	一宮	14歳	男	無	不明
8	一宮	16歳	男	無	不明
9	師勝	10歳	女	無	国内
10	師勝	4歳	男	無	国内
11	衣浦東部	35歳	女	不明	国内

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

初夏を思わせる日差しが訪れるようになりました。学生諸君は新しい教科書を張り切ってならべ（ため息ついているのもいる？）新任・転任の方たちは新しい企画書や申し送り書類の整理がついた頃でしょうか（以前、それまで中国残留孤児担当だったのが予防接種担当に配置転換された人に当時の厚生省でお目にかかったことがあります。同情しました）いつも貴重な情報を有難うございます。4月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：城北病院渡辺先生からはまだ急性胃腸炎がだらだらとあり、熱発患者で時にアデノ、インフルエンザ陽性者あり（インフルエンザBはほとんどない）下痢嘔吐の入院患者にまざり腸重積や虫垂炎の入院患者がたまにあり、第二日赤岩佐先生からは麻疹が1名あり、ロタ腸炎の入院がまだあり、インフルエンザの入院はいなくなった、三菱病院入山先生からはA群溶連菌咽頭炎5名（入院1名）感染性胃腸炎7名で、うちロタウイルス腸炎4名（入院1名）病原性大腸菌O18の入院1名、咽頭結膜熱1名入院、気管支炎～肺炎（マイコを含む）の入院5名あり、中京病院柴田先生からは外来では溶連菌感染症と胃腸炎、病棟ではロタウイルス性腸炎の入院が多くなっているとのお手紙でした。
2. 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎と感染性胃腸炎、水痘がそれぞれ散発中で手足口病1例とムンプスが1例、A型インフルエンザが中高生にまだ見られる、江南市昭和病院小児科からはインフルエンザとロタウイルス性胃腸炎は終息、麻疹の入院2例（12歳児と11ヶ月児、共にワクチン未接種）、百日咳の入院2例、常滑市民病院高橋先生からは外来では胃腸炎が目立ち、サルモネラ、カンピロバクターが少数あり、入院患者ではロタウイルス胃腸炎が多いとのお手紙でした。
3. 三河地区：トヨタ記念病院木戸先生からはアレルギー性鼻炎多く、時々喘息発作患者あり、外来の人数は減ってきた、入院では肺炎球菌感染症、ロタウイルス感染症が多い、刈谷市田和先生からは感染症は全体に少なく、ロタ腸炎、水痘、マイコ気管支炎、溶連菌感染症が毎週2～3例ずつあり、安城更生病院宮島先生からは溶連菌感染症の患者が増加、岡崎市民病院長井先生からは感染症はそれほど多くなり、入院患者ではロタ腸炎が多く、今年は4～5歳でも症状が強い例がある、碧南市永井先生からは感染性胃腸炎と溶連菌感染症、水痘、下気道感染が目立つ、豊橋市からは感染症は少なく、ロタウイルス胃腸炎、ウイルス性気管支炎、水痘、溶連菌感染症などが少々目立つ（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。



2008 年 3 月 28 日（83 巻 13 号）<http://www.who.int/wer/2008/wer8313/en/index.html>

ポリオ根絶の進捗。アフガニスタンとパキスタン。07 年 1 - 2 月。

世界のポリオウイルス野生株（WPV）の国内流行が遮断できていない 4 カ国（インド、ナイジェリア、パキスタン、アフガニスタン）のうち流行ブロックのひとつであるアフガニスタンとパキスタンでは単価ポリオ生ワクチン（mOPV）導入などの努力の結果、患者数は減少しているがまだ根絶に至っていない。本報は前回の報告（07 年 15 号、125 - 129 頁）に続く 07 年 1 - 12 月（08 年 4 月 21 日時点の最新データを含む）の報告である。

（1）予防接種活動： 06 年のポリオ生ワクチン乳幼児定期接種 3 回（OPV3）の全国接種率はパキスタン 83%、アフガニスタン 77%であったが、両国とも地域差が著明でパキスタンでは 132 地区のうち 46 地区(35%)が接種率 < 80%、13 地区(10%)が < 60%であった。アフガニスタンにおける乳幼児の OPV3 定期接種率はパキスタンより信頼性が低いが 329 地区で 32%前後の低さであった。07 年の 5 歳未満児対象の戸別訪問（house to house）による定期外補充予防接種活動（Supplementary Immunization Activities, SIA）：パキスタンでは 4 回の全国予防接種日（National Immunization Days, NID）と 7 回の準全国予防接種日（SNID、北西辺境州の反政府勢力が支配し治安不良な部族長支配地域やアフガニスタン国境地区など）を実施、アフガニスタンでは 4 回の NID と 7 回の SNID（パキスタンとの国境 4 州）実施。両国間の人口移動の頻度の高さから、SIA は 両国同時に実施された。両国における流行野生株は 1 型と 3 型であり接種ワクチンは 1 型単価ワクチン（mOPV1）、3 型単価ワクチン（mOPV3）、3 型混合 3 価ワクチン（tOPV）のいずれか、または組み合わせが地域の流行型の状況にあわせて選択された（一覧表あり）。SIA 接種率は両国とも全体としては > 95%であったが、パキスタンではハイリスク地区で全国平均より低く、両国とも治安不良の遠隔地域で低かった。治安不良のアフガニスタンでは 07 年には接種担当者が全ての小児に安全にアプローチ出来るよう努力が払われ、07 年 8 月には反政府勢力支配地域においてもポリオ根絶のため SIA が支援されているが、南西地域では急性弛緩性麻痺（AFP）調査の結果からは 20%以上の小児が SIA から放置されている(neglect)ことが明らかとなっている。

（2）AFP サーベイランス：07 年、両国における良質のサーベイランス実施の結果 15 歳未満小児人口 10 万当りの非ポリオ AFP 報告率はパキスタンで 5.6、アフガニスタンで 6.9 であった(州別一覧表あり)。AFP 例からの適切な検査材料採取率はパキスタンで 91%、アフガニスタンで 92%であった。パキスタン・イスラマバードの国立衛生研究所が世界ポリオ検査ネットワーク標準検査室として遺伝子解析を含む両国のウイルスサーベイランスを支援、07 年には両国の材料 13,513 検体（AFP 患者 10,845、接触者 2,668 検体）を検査した。

（3）野生株ポリオ発生状況(地図と表あり)： パキスタン：野生株確定例は 06 年に 22 地区で 40 例、07 年には 18 地区で 32 例と減少。この 32 例の 19 例(59%)が 1 型野生株（WPV1）、13 例（41%）が 3 型（WPV3）であり、21 例（66%）が 3 歳未満、6 例（19%）がワクチン未接種、6 例(19%)がワクチン 1 ~ 3 回接種、接種回数合計は 6 回（非ポリオ AFP 患者では 15 回）であった。アフガニスタン：野生株確定例は 06 年に 17 地区で 31 例、07 年には 13 地区で 17 例と減少。この 17 例の 6 例(35%)が 1 型野生株（WPV1）、11 例（65%）が 3 型（WPV3）であり、16 例（94%）が 3 歳未満、4 例（24%）がワクチン未接種、6 例(35%)がワクチン 1 ~ 3 回接種、接種回数合計は 2 回（非ポリオ AFP 患者では 12 回）であった。 流行地域：野

生株は2地域で流行(地図あり)。a)北地域:パキスタン北西辺境州とアフガニスタン東部のパキスタンとの国境地帯で部族長支配地区。b)南地域:アフガニスタン南部からパキスタン西部バロチスタン州、大都市カラチを含む南部シンド州分離ウイルスの遺伝子分析では両地域とも同一ウイルスの流行であった。08年の野生株流行:a)パキスタン:シンド州で1月に3例のWPV1発生。b)アフガニスタン:1月に4例、うちWPV1が3例(南部州2、西部州)WPV3が1例(南部州)発生。

インフルエンザ。世界の流行最新情報。08年第10-11週。

全体として減少。人における鳥インフルエンザ感染を除く。人の鳥インフルエンザ情報は[http://www.who.int/csr/disease/avian\\_influenza/en/index.html](http://www.who.int/csr/disease/avian_influenza/en/index.html)参照。欧州ではB型のほうが多くA(H1N1主体)も流行中。カナダとロシアではほぼ全域に流行中で香港では流行増加。オーストリア(AH1とBが混合流行)、ベルギー(AH1とBの地方的流行)、カナダ(AH1主体でAH3とBも)から米合衆国(42の州で流行。AH3とAH1が主体でBも)まで北半球18カ国で流行の報告があり(詳細略)、中国(AH1、AH3、B)、日本(AH1、AH3、B)、英国(AH1、AH3、B)など20カ国で散発中(詳細略)。

2008年4月4日(83巻14号)<http://www.who.int/wer/2008/wer8314/en/index.html>

ポリオ。ソマリアが再びポリオフリーになった。

08年3月25日、世界ポリオ根絶計画(Global Polio Eradication Initiative, GPEI)はソマリアが再びポリオウイルスフリーになったと宣言した。世界の公衆衛生上、歴史的快挙である。ソマリアでは07年3月25日以降、ポリオ患者が報告されていない。広範な内戦による治安劣悪化、難民の膨大な人口移動、行政機能・インフラストラクチャの欠乏などの背景にもかかわらず、同国におけるポリオウイルスの伝播は断絶された。この記念すべき勝利は10,000名をこえるソマリアのボランティアとヘルスワーカー達の、180万人をこえる5歳未満児を対象とした全世帯の戸別訪問接種の反復が地上最も危険とされている地域全部で実施された結果である。ソマリアでは02年にポリオは一度根絶され、02年ナイジェリアからの輸入で再感染したのが今回再び根絶に成功、このことでもっと条件の良いパキスタンやアフガニスタンなど現在ポリオが常在している国からの根絶の見通しが明るくなったと言える。今後、世界ポリオ根絶のため、国際ロータリーなどNGOをはじめとする国際的な財政的支援などの継続が望まれる。

新生児破傷風(NT)排除(elimination)。ザンビアにおける排除確認。

- (1)緒言:ザンビアは人口約1,200万、01-02年の調査によれば97-01年における新生児死亡は1,000出生当り37、乳児死亡は1,000出生当り95、妊婦死亡は10万出生当り729であった。WHOはNT予防のため、全ての妊婦に破傷風トキソイド(TT)接種を勧告している。ザンビアはこの勧告に従い06年には全妊婦の79%がTT接種を受け、60%がもう一つのNT予防のポイントである清潔な分娩を実施、WHO/ユニセフは06年には分娩の90%にNTが予防されていると推定している。01-06年の間、TTの臨時定期外補充接種活動(SIA)が18のNTハイリスク地区で妊娠可能年齢女性40万人を対象に3回接種(TT3)で計画された。約80%の女性が少なくとも2回(TT2)接種を受けた。その結果NT罹患例は00年の130例が06年には37例に減少した。07年8月ザンビア保健省はWHO/ユニセフの支援を得てNTが排除されているか調査を実施した。WHOによる排除の定義はその国の全ての地区で1,000出生当り1未満とされている。以下、NTに最もハイリスクな2地区における結果である。
- (2)方法: 調査地区の選択:ザンビアは72の行政区に分かれていて、一番最近のデータが得られている05年の集計を元を選択。選択基準はa)妊婦のTT接種率、b)病院とか施設



における清潔な分娩率、c) 都市か田舎か、d) NT報告数、e) 妊婦検診に1回以上受診しているか、の5項目としたところ、a) ~ c) の3項目が最悪地区の発見に有効であることが判明、東部州チャマ県と西部州カオマ県、隣接するセシェケ地区が選ばれた。セシェケ地区の年出生数は約4,500名、カオマ県は約9,500、05年のセシェケ地区におけるTT2回以上接種率は57%、医療施設での分娩46%、NT患児2例(1,000出生当り0.45)で、カオマ県ではTT2回以上接種率57%、医療施設分娩31%、NT患児ゼロ、チャマ県ではTT2回以上接種率54%、医療施設分娩32%、NT患児1(1,000出生当り0.21)であった。調査プロトコールとフォーム：WHOのNT調査プロトコールに準じた方式を採用。06年7月15日-07年7月14日の分娩について一定の様式(フォーム1、2、3)で聞き取り調査。調査集団の選択：調査チームの訪問可能な戸数、各地域の人口、出生数などから選択された。調査担当者の訓練と調査履行：首都ルサカでスーパーバイザーの訓練を07年8月9-10日に実施。スーパーバイザーは77名の訪問調査員の訓練を現地で実施。調査は8月14-16日(セシェケ県)、19-20日(カオマ県)に実施。8月22日にルサカで集計、解析された。履行に際して担当者からの問題点・回答のチェックをスーパーバイザーが実施した。

(3) 結果：4,391世帯が訪問調査された。調査世帯の人口は計24,337名(1世帯5.5名)、1,386名の出産(男児51%)を含み、32名が新生児期に死亡、NTによる死亡は1名であった。分娩の58.8%が訓練された助産婦による分娩、医療施設での出産が57.9%であった。32名の新生児死亡については16名が自宅出産(4名が床で、7名がマット上、5名がプラスチックシート上で分娩)、医療施設出産は全員がベッドで分娩、18名が剃刀で、11名が鉗で臍帯処置、3名が処置法不明、2名が伝統的処置を受けていた。32名の新生児死亡のうち11名が出生当日、16名が生後2-7日、5例が生後2-4週に死亡、TT接種状況は予防接種カードと面接で調査され、77.2%の母親がTT2回以上を接種されていたが、予防接種カードを保持していた母親は半分以下であった。

(4) 結語：ザンビアにおけるNT排除が確認された。今後の妊婦に対するTT接種率の維持が重要である。

愛知県感染症情報

2008年16週(2008年4月14日～2008年4月20日)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザ*	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																		
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	52	17	5	166	44	410	1,602	215	31	8	166	10	4	75	1	13	1	2	2	5
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	4	114	32	315	1,158	163	21	7	127	7	4	64	1	5	1	2	1	4
名古屋市	70	70	11	15	5	1	52	12	95	444	52	10	1	39	3		11		8			1	1
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2	13	55	42	5	2	3	9		1	3		1				4
海部津島	津島	7	7	2	2	1		7	12	202	14		1	4			1						
尾張中部	師勝	4	4	1	1			5	6	19	1			4			2		1				
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	1	5	17	45	11			8		1	8		1		2		
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	1	27	69	124	11	3	1	12	1	1	10						
	江南	6	6	1	2			10	16	61	6	4		14			1		1				
知多半島	半田	6	6	1	2	1		4	20	112	3	2	1	7			2	1					
	知多	7	7	2	2			4	8	76	6	3		3			5						
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		15	3	40	54	1		8			7						
	衣浦東部	13	13	2	4	1		4	5	28	98	3		21	3		13						
	西尾	5	5	1	2	1			12	56	7	2		10			3						
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1		12	6	68	23			5	3		6			1		1	
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		3	8	16	114	11		11			2						
	豊川	9	8	1	2	1		5	1	8	86	5	1	1	11		1		1				
東三河北部	新城	2	2			1			2	1													

\*鳥インフルエンザ及びインフルエンザ(H5N1)を除く

愛知県感染症情報

2008年16週(2008年4月14日～2008年4月20日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ*	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	4	114	32	315	1,158	163	21	7	127	7	4	64	1	5	1	2	1	4
～6ヶ月	2	1			20	6			6	2				1				
～12ヶ月	2	5	1	3	99	8			62		1							
0歳																		
1歳		7	7	16	180	34	8	1	56		1	5		1				1
2歳		14	7	21	161	30	6	1	3			10					1	1
3歳		10	5	33	118	26	1					9				1		
4歳		11	1	50	93	23	5	1				12						
5歳		8	2	54	86	15		2				10						
6歳		4	2	33	65	5		1			1	3						
7歳		3		38	56	6		1		1	1	4						
8歳		4	1	14	39	5						3						
9歳		6	2	11	29	1						2						
5歳～9歳																		1
10歳～14歳		6	2	24	54	3				1		4						1
15歳～19歳		3		3	18													
20歳～			2	15	140	1	1			3		2			1			
20歳～29歳		10											1	1				
30歳～39歳		13												2				
40歳～49歳		1														1		
50歳～59歳		3																
60歳～69歳		3																
70歳～																		
70歳～79歳		2																
80歳以上																		

\*鳥インフルエンザ及びインフルエンザ(H5N1)を除く